
『観光クラウドWG』 活動報告

2012年7月19日

ソフトバンクテレコム株式会社

1. WGの概要

目標

観光立国の実現は地域経済の活性化、雇用機会の創出、国際相互理解の増進等に資するとされ、我が国の21世紀の国づくりの柱として、今後ますます取り組みを強化する政府方針となっている。この分野において、ICT技術を活用することで、中小を含む観光関連事業者が低価格で効率的に各観光サービスの提供ができる「観光クラウド」モデル作りの検討を行うこととする。

課題認識

安心安全面も含め、国内の外国人観光客向けの多言語案内が絶対的に不足しており、地方自治体や中小事業者が個別に用意するのも経済的に困難である。また、観光客誘致のための情報内容や発信経路が大きく変化して来ているため、観光コンテンツの提供環境、規格形式、権利処理の問題から、利活用の際に障壁が存在する。さらに、震災後の自粛風潮や風評被害も深刻である。

具体的検討項目

STEP1:情報収集

- ・外国人観光客の受入環境基盤。
- ・観光コンテンツの利活用課題。
- ・これまでのICT観光政策の検証。
- ・震災後の観光状況の把握。

STEP2:課題検討

- ①多言語コンテンツの造作とその利用に関するルール作り、普及促進。
- ②自走式ビジネスモデルの構築。
- ③回遊調査、消費分析、安心安全の観光街作り等の研究。

STEP3:具体化

- ①標準化等の公開と普及促進。
- ②モデル地域における実証実験。
- ③関連各省への政策提言検討。
- ④地域観光の復興と振興。

導入効果(目標)

観光事業分野にICTを活用することで、外国人観光客の訪問数を増加させるとともに地域活性化につなげることを目標とする。

2.メンバー(2012年7月1日現在)

No.	団体名
主査	ソフトバンクテレコム株式会社
オブ	総務省 情報通信政策課
オブ	国土交通省観光庁 国際観光政策課
オブ	北海道
オブ	京都市
オブ	福岡県 *
オブ	沖縄県
オブ	日本政府観光局
オブ	社団法人日本観光振興協会
オブ	東京商工会議所 *
オブ	立命館大学*
オブ	NPO法人 旅行電子商取引促進機構*
1	独立行政法人情報通信研究機構
2	財団法人京都高度技術研究所
3	国立情報学研究所
4	京都大学
5	早稲田大学
6	東京工科大学
7	北海商科大学
8	目白大学 *
9	社団法人北海道観光振興機構
10	自動車旅行推進機構カーたびクラウド部会
11	株式会社アイアム
12	株式会社ドリーム・アーツ沖縄 **
13	株式会社うぶすな
14	株式会社ATR-Promotions
15	株式会社A-MAX
16	MKT-SYSTEM
17	沖縄DFS株式会社
18	株式会社キャンドウコンセプト
19	京都フラワーツーリズム合同会社
20	協和テクノロジズ株式会社
21	近畿日本ツーリスト株式会社
22	CREATOR'S BOX ◇
23	KDDI株式会社

オブ: JCCオブザーバーまたはWGオブザーバー

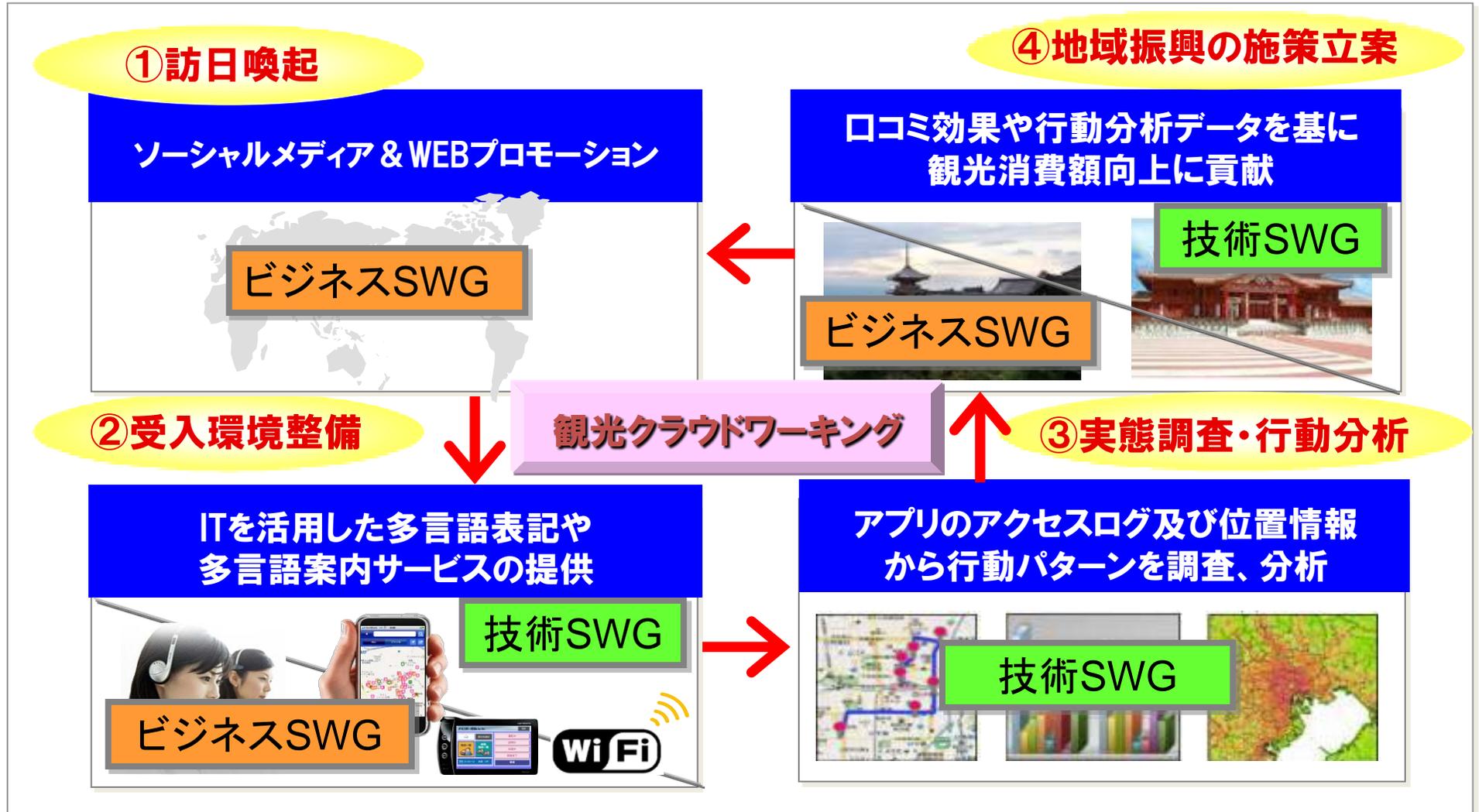
*: WG第二回目以降参加

** : 団体名変更

No.	団体名
24	株式会社恵和ビジネス
25	株式会社ジェイアール西日本コミュニケーションズ *
26	株式会社ジェイティービー
27	株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル
28	株式会社JTBコミュニケーションズ
29	株式会社セールスフォース・ドットコム
30	ソフトバンクペイメントサービス株式会社
31	大日本印刷株式会社
32	地域情報エージェント株式会社
33	株式会社電通
34	株式会社ニーニャス
35	日本写真印刷株式会社
36	日本システム開発株式会社
37	日本電気株式会社
38	日本電信電話株式会社
39	株式会社日本能率協会総合研究所
40	日本ユニシス株式会社
41	株式会社野村総合研究所
42	株式会社はとバス
43	株式会社ヴァル研究所
44	東日本高速道路株式会社
45	株式会社日立ソリューションズ
46	株式会社フォネックス・コミュニケーションズ
47	富士株式会社
48	富士通株式会社
49	株式会社フライトシステムコンサルティング
50	株式会社まいど日本
51	株式会社三菱総合研究所
52	メタデータ株式会社
53	ヤフー株式会社
54	株式会社山根ドキュメンテーション
55	株式会社リクルート
56	株式会社NTTデータ
57	ミテネインターネット株式会社
58	オムロンソフトウェア株式会社

3. SWGの設立と各役割について

- ・「情報交換から議論の場へ」 ビジネスSWGと技術SWGの設立。
- ・一連のサイクルにおける観光施策の立案をそれぞれの立場にて。



4.WG活動概要

WG/SWG		日時	場所	参加者	概要
WG	第三回	2012/02/20(月) 15:00~17:00	青海キャンパス9F	42名	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「中国観光客を誘致するためのプロモーション戦略」(北京大学アジア経済文化研究所 王春生様) ・サブワーキングの設置決定
ビジネス	第一回	2012/03/19(月)	ソフトバンクテレコム本社	14名	<ul style="list-style-type: none"> ・各社の観光取り組み事例紹介 ・ビジネスSWGの目的や成果物の共有
技術	第一回	2012/03/23(金) 16:30~18:00	西早稲田キャンパス	20名	技術SWGキックオフ
ビジネス	第二回	2012/04/24(火)	ソフトバンクテレコム本社	24名	<ul style="list-style-type: none"> ・新規参加メンバーの観光取り組み事例紹介 ・講演「観光分野での新規事業の検討について」(富士通様) ・提言書提出についての検討
技術	第二回	2012/04/26(木)~ 2012/05/18(金)	メール審議	NA※1	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介「リアルタイム翻訳アプリご提案」(オムロンソフトウェア様) ・技術SWG提言案の作成
		2012/04/25(水) 10:00~12:00	国立情報学研究所	12名	LOD (Linked Open Data) の観光分野での活用について議論
		2012/05/21(月) 10:00~12:00	大日本印刷株式会社	8名	ループル-DNPミュージアムラボ見学、新規テーマディスカッション
WG	第四回	2012/06/25(月) 15:00~16:30	青海キャンパス9F	28名	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「国連及びAFACTとJTRECの活動」(NPO法人旅行電子商取引促進機構 石原直様) ・「観光立国日本を推進するための情報通信技術利活用に関する中間提言」の議論

※1技術SWGメーリングリスト(kanko2012@):28団体、計58名

5.中間提言

Step1:
情報収集



Step2:
課題検討



Step3:
具体化(提言)



Step4:
具体化(標準化等)

昨年10月からの活動を「**観光立国日本を推進するための情報通信技術利活用に関する中間提言**」として、以下の8項目にまとめた。

1. 独立採算のビジネスモデルの確立
2. SNSの活用とインバウンド向けのプロモーション
3. 安心安全のための緊急時情報提供
4. 観光クラウドラボの設立
5. 多言語化と機械翻訳の推進
6. 国際標準の推進
7. 情報連携の促進
8. 防災・減災と観光クラウド

6. 中間提言抜粋①「SNSの活用」イメージ

【外国人フォトインタレスト情報の集積と拡散】

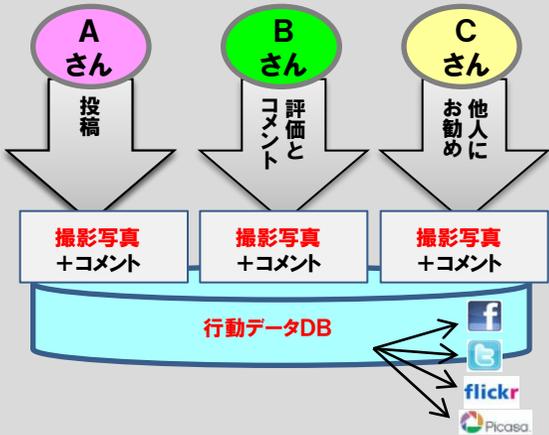
観光基本情報として、撮影写真と関連するメタ情報を合わせて、スマホから随時アップロードしてもらい、集積・拡散させる仕組みを構築することにより「観光情報＋街歩き情報＋いいね！」情報を整備。訪日を検討している外国人の有益な情報源とする。また、データから、各国からの訪日外国人が、どこで、なぜ、何に響いたのかを分析し、訪日外国人に対するプロモーション戦略に活かす。

【レイヤー①】 訪日者の観光基本情報		a) 観光情報	地図 定番観光スポット etc...	「日本に住んでいて」「自分と嗜好の似ている」母国人のオススメ観光情報を知ることができる。
		b) 街歩き情報	最新イベント 旬なお店 etc...	
		c) 「いいね！」情報	個店/個別スポット メニュー/商品評価	

+

【レイヤー②】
訪日外国人のインタレスト情報

- ・外国人観光客が街歩き中に自分が気になったものをアプリやサイトから投稿。
- ・これらの投稿内容に対してユーザーが評価・コメント、あるいは他人へのオススメをしてもらい、国や性年代等の属性と紐づく形で、どのような観光資源や企業の製品サービスが外国人に響くのかについてのデータベースが集積され、様々な形で活用していくことが可能。



【取得データ例】
 滞在中、「どこで、なにをして、なにを思ったか」をワンセットとして、登録させる。

- ①位置情報
- ②その場で撮影した写真
- ③アクション(食事、買物、見学、移動、エンタメetc.)
- ④フリーコメント

【利用者へのインセンティブ】

- ①金銭インセンティブ(ポイント加算など)
- ②アプリを使う便利さ、楽しさ(旅の備忘録、スタンプラリー、写真の共有と評価、お勧め等)

7.中間提言抜粋②「観光クラウドラボ」イメージ

現在の日本が抱える喫緊の課題を観光クラウドラボを利用することで解決課題:

- 就職・雇用対策 ⇒企業へのアピールの場 & 観光活性化による地方の新規雇用の創出
- ICT人材の育成 ⇒オープンデータ活用、ビッグデータ分析を行える人材を育成
- VisitJapanの強化 ⇒留学生等による多言語日本観光情報のアピール & 口コミ効果の強化

①観光アプリコンテスト



②観光政策コンテスト

- 1位: 銀聯カード決済端末の導入と口コミ
- 2位: LODを活用した情報発信
- 3位: 大学生・留学生と観光ログを活用した観光地発掘

③観光統計指標コンテスト



ビッグデータ基盤 (データ連携、処理、管理)

観光情報のオープン化

政策効果測定

観光情報ログ収集

マーケティング

現実空間

目的

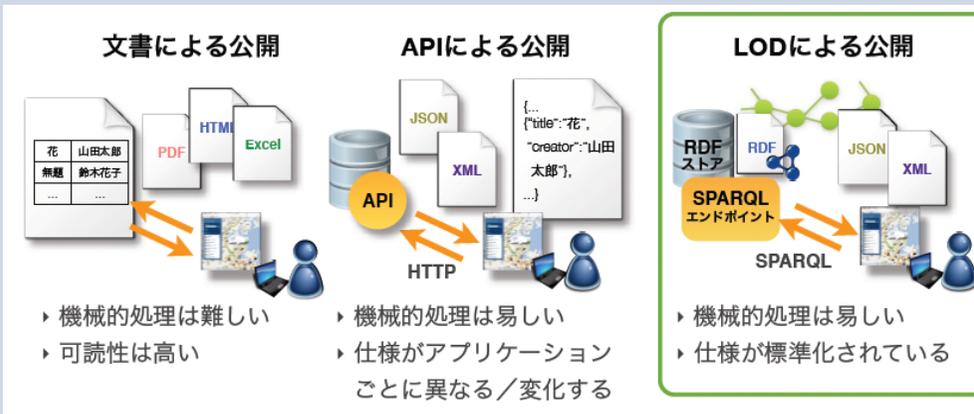
- ✓ 産学共同研究拠点
- ✓ 地域人材育成の場
- ✓ ICT情報循環社会のモデルケース

解決すべき課題

- ✓ (特に訪日外国人)旅行者の回遊把握
- ✓ オープンデータの効果測定
- ✓ ビッグデータ分析者の育成

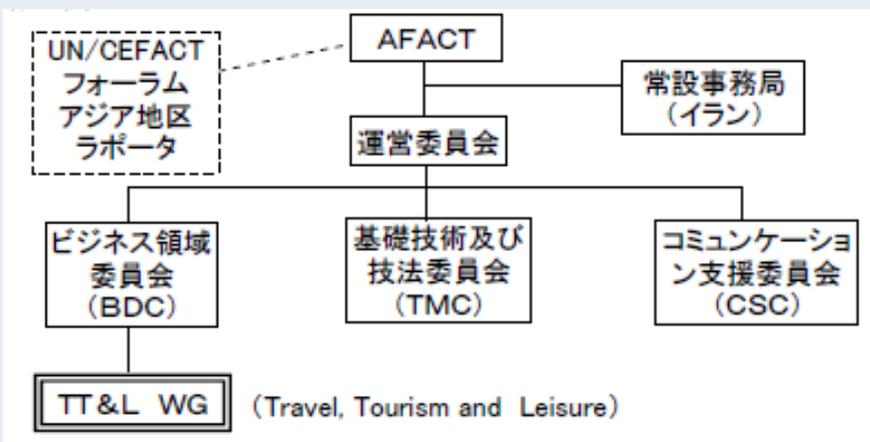
8. 中間提言抜粋③ 情報連携の推進

① LODの推奨



•オープンデータの取り組みにも積極的に参加予定。

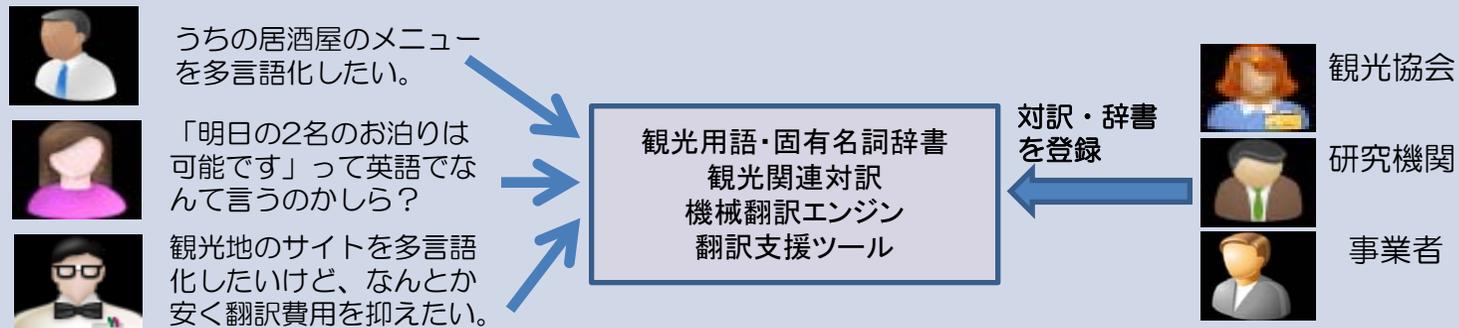
② 国際標準の推進



•AFACT:Asia Pacific Council for Trade Facilitation and Electronic Business (貿易円滑化と電子ビジネスのためのアジア太平洋協議会)

•TT&L WG:AFACT BDCの中に設置された旅行関連作業部会である。2010年AFACT横浜会議で設置が承認された。

③ 多言語化の推進



9.活動状況と今後の予定

	2011年度						2012年度				
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
JCCイベント			▲12/22 第3回総会			▲3/8 JCCシンポジウム				▲7/19 第4回総会	
観光クラウド WGイベント	▲10/21 設立総会 (WG①)	▲11/28 WG②			▲2/20 WG③				▲6/25 WG④		
技術SWG						▲3/23 技術SWG①	▲4/26~5/18 技術SWG②				
ビジネス SWG						▲3/19 ビジネスSWG①	▲4/24 ビジネスSWG②				
活動内容	STEP1: 情報収集		STEP2: 課題検討			STEP3: 具体化(解決策検討・提言作成)					※中間提言 まとめ
普及啓蒙活動								▲5/10 AFACT旅行関連日 本部会にて、講演 (事務局)		▲7/19 JTREC第二回旅 行EDI研究会にて、 紹介(事務局)	

今後は、提言内容を具体的に進める予定である。